

---

# あるものの死

Python

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あるものの死

### 【著者名】

IZUMI

### 【作者名】

Python

### 【あらすじ】

どんぐりがえしがやりたかった。

私はもうすぐ死神に連れ去られる。

そして地獄に連れて行かれ、地獄の業火に焼かれるのだ。

昨日まで私には、あたたかい家があった。  
しかしその家から、私は追い出された。

もうすぐ命が尽きる私を、悪魔が見ている。

真っ黒な衣をまとつた悪魔が奇声をあげながらこちらを見ている。

道端に転がる私の前を多くの人が通る。

しかし私の方を見る人はいない。

見たとしても、顔をしかめるだけだろう。

私に未来はない。

私にもう生き延びる道はない。

私にはもう動く力はない。

静かに死を待つだけだ。

いつのまにか悪魔が目の前にいた。

悪魔はためらうことなく私の皮膚を破る。

私から血が流れた。

悪魔は、構うことなく私の中身を引きずり出す。

しかし悪魔は私を殺すことをしない。

ただ、もてあそぶだけだ。

死神がやつってきた。

ついに私は死ぬようだ。

死神は私の前に立つとその、大きな口を開いた。

私と同じような格好をしたものたちがその口に吸い込まれてゆく。  
そして私の番になつた。

死神の子分に持ち上げられ、私は死神の口へと吸い込まれていつ  
た。

「……まったく、勘弁して欲しいよなあ」

助手席に乗り込んできた相棒が言った。

「ああ、またか」

俺は車を発進させながら答えた。

「……まったく、カラス防止ネットくらい被せろってんだ」

相棒はまだブツブツと言つていたが、俺はそれ以上答えずゴミ処  
理場への道を急いだ。

(後書き)

どの行で「私」の正体はわかりましたか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8189/>

---

あるものの死

2010年10月17日07時07分発行